

美唄市農協地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

JAびばい地域が将来に亘り米主産地として生き残るためには、水張り面積を確保することはもとより、高品質米の生産、需要に見合った用途別の生産・販売の強化に取り組み、消費者・実需者ニーズに即した売れる米づくりを一層推進することが重要となる。

また、国内自給率の向上に資する麦・大豆の本作化に向け、麦・豆類になたねを加え、麦後緑肥の導入による有機物の補給や計画的なローテーションを行うことにより、収量・品質の向上を図ると共に、水張り面積を確保すべく新規需要米となる飼料用米の作付を推し進め、振興作物である花き・トマト・胡瓜・アスパラガス・玉葱・ハスカップ・軟白長葱・メロン・南瓜・キャベツ・ズッキーニ・イチゴ・ブロッコリー・しょうが・スイートコーン・加工トマトについては、地域性や個々の労働力などを十分考慮し、作付の拡大を図り産地確立と経営改革に努めて参ります。また、農地保有合理化事業及び農地中間管理事業を活用し担い手等への効率的な農地利用を提案します。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要の減少による産地間競争が激化する厳しい環境の中、生産履歴を明確にした「安全・安心」な米の供給はもとより、商品性の高い良食味米の安定生産に向け作土を乾かし、透排水性の向上を図る土づくりを積極的に推進する。

また、「売れる米づくり」を基本に、様々なニーズに応えるべく生産構造を見直し、また乾田直播栽培技術等による低コスト生産技術の推進により、消費者重視・市場重視の生産体制の構築を図る。

販売対策としては、良食味品種の市場拡大を図るとともに直播適応品種の市場評価を高め、雪零温貯蔵による保管の差別化・大型均質ロットの調製等により産地指定率の向上に努め、美唄産の名声を高める。また、クリーン農業・環境保全型農業による特別栽培米等は付加価値商品と位置づけ、ニッチ市場に向けての販売拡大を図る。

(2) 非主食用米

水田の多面的機能を活かし、加工用米・新規需要米への取組を実践かつ、水田利用による輪作体系の構築を図り、転作小麦・大豆過作による連作障害の回避や基盤整備後の主食用米生産対策を行い、需要に応じた生産体制の構築を図る。

ア 飼料用米

国からの産地交付金を活用した多収性専用品種の導入推進及び団地化の推進を図り平成32年には、地域の水田面積の1割の導入を目指す。

イ 米粉用米

地域の必需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

ウ 新市場開拓用米

北海道米の新たな需要を確保するという観点から作付面積の確保を図り、需要に即した品種の誘導を図る。

エ 加工用米

基盤整備事業により耕作面積が減少する中、大豆・麦の輪作体系が大きく崩れる事を防ぎつつ水張り面積を維持すべく需要に即した品種の誘導を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

転作作物の大宗を占める麦・大豆については、品質と収量の向上が不可欠ことから、休閑・後作緑肥の導入等による有機物補給、計画的なローテーションの実施による連作障害回避、排水・保水対策等の土づくりの定着を図り、空知農業改良普及センターと連携した技術指導による適正管理により生産性の向上に努める。

また、需要の高い春まき小麦の生産拡大と増収量・良品質生産に向け、初冬播き栽培技術の定着を図り需要に応じた生産と輪作体系の確立を図る。

輪作体系構築の基幹となる大豆の定着を図るため、安定確収、低コスト・省力的栽培技術を確立するとともに需要・風土条件に添った品種選定を行う。

(4) そば、なたね

「なたね」については輪作作物と位置づけ実需者との契約により拡大を図り、「そば」についても地域の必需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する

(5) 高収益作物(野菜等)

JAの振興作物である花き・トマト・胡瓜・アスパラガス・玉葱・ハスカップ・軟白長葱・メロン・南瓜・キャベツ・ズッキーニ・イチゴ・ブロッコリー・しょうが・スイートコーン・加エトマトについては、生産推進と栽培技術の構築から一定ロットを確保、販売力の強化を図り、個々の所得の向上と農業収入の位置づけの中で「補完」から「基幹」への経営改革を図る。

また、交付金に依存しない、いち早い経営改革・確立の観点から、美唄の特産品であるアスパラ・生姜・スイートコーン・ハスカップを重点作物として位置付けて推進する。

(6) 地力増進作物

間作・後作緑肥の導入による有機物の補給や、計画的なローテーションの実施により連作障害の回避や生産向上ができる土づくりを目指す。

(7) 耕畜連携

水稲作付面積を確保しつつ、耕種農家と畜産農家における地域内連携を推進するため、飼料用米(わら専用稲含む)作付及びわら利用による耕畜連携の取組を支援する。

(8) 二毛作

水田の有効活用を目的に、麦・大豆との輪作体系に組み入れ連作障害を回避するとともに、農家所得の向上を目指す。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,754.83	1,746.80	1,700.00
飼料用米	226.82	192.99	210.00
米粉用米	1.10	1.10	1.10
新市場開拓用米	0.00	10.50	10.50
加工用米	129.77	122.81	120.00
麦	1,161.58	1,207.49	1,100.00
大豆	1,321.35	1,216.29	1,200.00
飼料作物	3.60	3.70	3.80
そば	131.86	132.00	124.00
なたね	131.02	141.85	190.00
地力増進作物	312.50	395.05	465.00
その他地域振興作物			
野菜			
・アスパラ	25.70	23.68	31.00
・玉葱	29.61	28.39	30.00
・メロン	0.41	0.33	0.45
・長葱	0.12	0.10	0.10
・トマト	0.46	0.48	0.50
・胡瓜	0.00	0.02	0.05
・ズッキーニ	1.34	1.14	1.20
・いちご	1.21	1.18	1.20
・南瓜	0.95	0.95	1.00
・キャベツ	0.00	0.02	0.05
・ブロッコリー	0.00	0.00	0.05
・生姜	0.21	0.07	0.15
・スイートコーン	0.00	0.40	0.45
・加エトマト	0.00	0.10	0.10
・その他野菜	10.39	15.71	18.75
果樹(ハスカップ)	0.32	0.32	0.50
花卉	16.80	15.69	16.00

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値(平成32年度)	
				現状値(平成29年度)	目標値(平成32年度)
1	小麦・大豆 (黒大豆含む)	自給率向上重点 推進加算	取組面積 製品平均反収	小麦 1,161.58ha 7.4 俵/10a 大豆 1,321.35ha 4.1 俵/10a	小麦 1,207ha 7.6 俵/10a 大豆 1,216ha 4.2 俵/10a (H30 年目標)
2	なたね	なたね自給力向上重 点推進加算	取組面積 製品平均反収	131.02ha 6.9 俵/10a	141.85ha 7.0 俵/10 (H30 年目標)
3	飼料用作物	飼料用作物自給率向 上重点推進加算	作付面積	3.6ha	3.7ha(H30 年目標)
4	飼料用米	わら利用助成連携 (耕畜連携)	取組面積	226.82ha	228ha(H30 年目標)
5	そば・なたね	そば・なたね二毛作 助成	取組面積	31ha	35ha
6	玉葱・いちご・軟白 長葱・花き・ズッキ ーニ・キャベツ・胡 瓜・トマト・加エトマ ト・ブロッコリー・メロ ン・南瓜・その他作 物※その他作物は 別紙のとおり	振興作物推進加算	作付面積	61.29ha	69.45ha
7	アスパラガス・生 姜・スイートコーン・ ハスカップ	振興作物重点加算	作付面積	26.23ha	32.1ha
8	地力増進作物	地力増進作物助成	取組面積	312.50ha	395.05ha (H30 年目標)
9	地力増進作物	麦・大豆土壌病害 対策	取組面積	61.40ha	60ha(H30 年目標)
10	地力増進作物	麦・麦土壌病害対策	取組面積	34.88ha	38ha(H30 年目標)
11	なたね・アスパラガ ス・生姜・スイートコ ーン・ハスカップ・玉 葱・いちご・軟白長 葱・花き・ズッキ ーニ・キャベツ・胡瓜 ・トマト・加エトマト・ブ ロッコリー・メロン・ 南瓜・その他作物 ※その他作物は別 紙のとおり	振興作物地力増進 推進加算	取組面積 製品平均反収 (代表作物: なたね)	218.54ha 6.9 俵/10a	291.55ha 7.2 俵/10a

12	そば	そば自給率向上推進 助成	作付面積	131.86ha	132ha(H30年目標)
13	そば・なたね	そば・なたね基幹 作付助成	作付面積	262.88ha	314ha
14	新市場開拓用米	新市場開拓用米作付 助成	取組面積	0ha	10.5ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり